

＜テーマ＞習得と活用のための組織的な取組

(気仙沼市立気仙沼小学校)

【取組の概要】

「できるようになりたい」「難しい問題に挑戦したい」という思いを高めさせるために、週末に算数オリンピックを開催し、組織的に学力向上を目指す。

- ① 児童の日常生活に関連する問題を作成し、週末に配布する。(担当：主幹教諭・研究主任)
- ② 週末に問題に挑戦する。分からないときは家族と一緒に解決を目指す。
- ③ 解答用紙を回収し、採点をする。(担当：主幹教諭・研究主任・少人数指導教員)
- ④ 模範解答を作成する。(担当：校長・教頭)
- ⑤ 算数スキルタイム等と活用して解き方についての意見交換をする。(担当：学級担任)
- ⑥ 金メダルを獲得した児童の解答を教室に掲示したり学級便りで紹介したりして、次回の算数オリンピックへの意欲をもたせる。(担当：研究主任・学級担任)

＜問題例（1）＞

先生達で買い物に行きました。A先生はりんご2個、バナナ3本、みかん1個を買って460円払いました。B先生はりんご1個、バナナ2本、みかん2個を買って360円払いました。C先生はりんごを3個、バナナ1本、みかん3個を買って380円払いました。D先生はりんご2個、バナナ2本、みかん2個を買おうと思います。さて、何円払えばいいのでしょうか。どのように計算したのかも説明しましょう。

＜問題例（2）＞

6の約数を全て書き出してみると、「1, 2, 3, 6」となりますね。4つの約数をたし算すると、「 $1+2+3+6=12$ 」となり、約数の和がもとの数である6のちょうど2倍になります。このような「約数の和がもとの数の2倍になる数」を『完全数』と呼ぶことにしましょう。

さて、この完全数ですが、実はとっても少ないのです。1～99までの数のうち、完全数はたった2つしかありません！そのうちの1つは「6」です。さあ、もう1つの完全数を見つけてください！



【校舎内の掲示物】

優れた考え方やおもしろいアイデアで課題を解決した児童の解答は「金メダル」として教室や廊下に掲示する。

【取組の成果】

- 問題に挑戦した児童同士で意見交換が行われるようになり、休み時間においても対話的な学びが展開されるようになった。
- 児童が苦手とする問題の傾向を職員で組織的に捉えることができた。